

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2022年11月20日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクール優勝者インタビュー

中野 りな (第8回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門優勝)

取材:片桐 卓也(音楽ライター)



ーヴァイオリンを始めたきっかけは?

ヴァイオリンを始めたのは3歳の時です。兄がヴァイオリンを習っていたので、自分も始めたいと言ったそうなのですが、あまりその時の記憶はありません。両親は音楽には関係のない家庭でした。8歳から仙川(東京)の「子供のための音楽教室」に通い始めて、次第に海外のマスタークラスなども受けるようになりました。小学校5年生の時から、モーツァルトウム音楽院(ザルツブルク)のアカデミーに参加して、ポール・ロチェック先生の指導を受けています。

ーバルトーク第2番を選んだ理由は?

ファイナルで選んだバルトークの『ヴァイオリン協奏曲第2番』は、いま師事している辰巳先生の薦めで演奏するようになりました。日本音楽コンクールもそれで受けましたが、もう一段、バルトークが上手になれるようにと今回も選びました。そして、ファイナルとその翌日のガラ・コンサートでも演奏しましたが、ガラ・コンサートのほうが、やはり楽しく弾けたと思います。指揮の広上さんも演奏の途中で笑顔を見せてくれたので、自分もちょっと笑顔になりました。オーケストラと合わせて協奏曲を弾くということは、昨年(2021年)の日本音楽コンクールが初めてだったのですが、フルのオーケストラと共演する機会はまだまだ少ないと思います。

バルトークを最初に勉強し始めた頃は、音の使い方が独特で、捉え方が難しい作品だなと思っていましたが、次第に好きになってきました。辰巳先生のアドバイスは、緊張しないで、もっと「のって」弾くこと、そして自分の音楽を伝えなさい、ということでしたが、今回のコンクールでは集中して演奏することができたと思います。日本で行われる国際コンクールで日本人として優勝することができたのは、とても嬉しかったです。

ー仙台国際音楽コンクール、仙台滞在はいかがでしたか。

仙台を訪問するのは、今回が2度目でした。最初は音楽教室関連のコンサートで一度来たことがありました。今回はコンクールの期間が長く、またホテル滞在ということで、なかなか難しい面もあったのですが、母と一緒に来てくれて、仙台の美味しいものをいろいろと検索してくれたお陰で、気分転換ができました。仙台ではやはり牛タン、そして「えんどう」のトンカツが美味しかったです。ホテルではみんなが練習しているのがすごく聴こえてきて、あ、みんな一生懸命にやっていると思って、刺激になりました。

仙台国際音楽コンクールは、私にとっては初めてのシニアの国際コンクールでした。協奏曲をたくさん弾かなければならないので、そのクオリティを揃えるという点に注意しながら、練習をしていました。セミファイナルで選んだメンデルスゾーンの協奏曲は深く勉強したことがなかったのですが、それをクオリティの高いものにするのが難しかったです。モーツァルトに関しては、本番ですごく緊張してしまって、あまりうまく行きませんでした。モーツァルトにふさわしい演奏スタイルはどんなものだろうと、モーツァルトの他の作品なども聴いてみながら、考えて行きました。

ー今後、演奏してみたい曲は?

今後、協奏曲として演奏したいのはベートーヴェン、そしてチャイコフスキーです。チャイコフスキーもあまり演奏したことがないので、これから取り組んでみたい作品です。このコンクールの優勝の副賞としてリサイタルをさせていただけるのですが、今まであまりリサイタルをしたことがなく、レパートリーも少ないので、まだ何を弾くかは分かりません。ただ、ロマン派のソナタのレパートリー、例えばブラームスなどを勉強したいとは思っています。

ーご自身の性格、音楽以外にお好きなことを教えてください。

自分の性格はポジティブで、あまり深く考えないところが良い点かもしれません。マイナスなことでも、それが後々良いことにつながるかなと思って、前向きに考える性格です。趣味としては、本を読むことが好きです。特に辻村深月さんの小説をよく読んでいます。そして、小さい頃からバレエを続けていることも、趣味のひとつと言えるかもしれません。休日もヴァイオリンを練習していることが多いのですが、食べることも好きなのでたまにカフェにいたりします。

これからも研鑽を続けて、色々な作品を演奏できるような演奏家になって行きたいと思っています。



■お問い合わせ先/公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel:022-727-1872 Fax:022-727-1873 Email:info@simc.jp URL:https://simc.jp

ルウオ・ジャチン(第8回仙台国際音楽コンクールピアノ部門優勝) 取材:萩谷 由喜子(音楽評論家)



ーピアノを始めたきっかけは?

家族に音楽家はいませんが、2~3歳の頃から音楽を聴くと喜んでいました。それをみて、祖母がピアノを買ってあげようと言って楽器店へ僕を連れて行き、ピアノを選んでくれました。祖母もとても音楽が好きで、僕と一緒にピアノを習い始めたくらいです。

ー初めての協奏曲体験は?

14歳のときです。ベートーヴェンの第3番でした。

ー数あるコンクールの中から仙台国際音楽コンクールを選んだ理由は?

それはもう、オーケストラと3回も共演できるというのが最大の魅力でした。それから日本に興味を持っていたので、実際にこの目で日本を見て、日本文化に触れてみたいと思ったことも理由です。そして実際に仙台へきてみて、皆さんに本当によくしていただき、大変感謝しています。

ーファイナルで弾かれたモーツァルトのハ長調K503は後期協奏曲の中では地味な曲ですが、なぜこの曲を?

この曲は限りなく純粋な美しさに満たされていて、僕の大好きな作品なのです。非常に色彩感が豊かで、調性が変わるたびに色合いが移ろっていくところがたまりません。特に第2楽章が好きです。練習していて気持ちのよい曲ですし、オーケストラと共演する時は声部の聴き分けを楽しく感じました。もちろん、この曲をオーケストラと共演したのは今回が初めてです。

ープロコフィエフの第2番の選択理由も教えてください。

この協奏曲を初めて聴いた11歳か12歳くらいのとき、まるでモンスターのようだと感じ、強い衝撃を受けました。以来ずっと聴いてきて、闘う姿というか、ダークサイドの面にぐんぐん惹かれてきました。5分もあるカデンツァも大好きで、すべてが素晴らしいと思っています。仙台で実際にオーケストラと共演させていただき、オーケストラとの一体感も感じました。ファイナルと入賞者記念ガラコンサートの2回にわたって本番を体験させていただいたことにとっても感謝しています。

ー現在、ダン・タイ・ソン先生に師事されていますが、どんなアドバイスを受けていますか?

先生の頭には常に音楽のことがお有りで、最高の音楽を聴き手に届けなさい、といつもおっしゃいます。具体的な教えとしては、voicingということを重視され、声部の作り方をきめ細かく教えていただいています。作品やフレーズごとに、それにあった美しい音色で声部をつくらなければいけないとおっしゃいます。あともう一つ、師事したその瞬間から、ペダリングについても細かく指導を受けました。ペダルは、使い方一つでまったく異なる音楽になる、曲によってはもちろん、ホールによっても変える必要がある、と教えられました。そうした音楽上のことだけでなく、先生は人生についても語ってくださいます。

ー実際の演奏上では、何を大切にしているのでしょうか?

曲を構築するとき、細部に気を配りつつ、全体像をイメージすることが大事だと思っています。協奏曲の場合はオーケストラが何をしているのか常にわかっていないとだめなので、必ずフルスコアを勉強しています。実際のオーケストラ合わせの段階では、テンポとか、瞬間、瞬間の合わせ方などをどう確認していくか、プランを立てた上で合わせていただき、オーケストラとのコミュニケーションを大切にします。合わせのあとは、録音を聴いて確認します。

ー今後、どのようなレパートリーをつかっていきたいですか?

モーツァルトはもともと、聴くのは好きでした。弾いてみるとトリッキーなところがあって難しいと感じます。アルカンのピアノ曲にも興味がありますし、コンテンポラリーミュージックも弾きたいです。友人とか新人の作品を実際にその人と話をした上で弾くことも取り組んでみたいです。

ー次に協奏曲を弾くとき、指揮者とオーケストラを世界中から自由に選べるとしたら?

今回素晴らしいサポートをしてくださった高関健先生指揮の仙台フィルとまたぜひ共演したいと思っています。

【速報】2023年 第8回仙台国際音楽コンクール優勝記念リサイタル 開催決定!

第8回仙台国際音楽コンクール優勝記念リサイタルを仙台・東京で開催いたします。
チケットは2023年2月8日(水)一般発売予定です。詳細は公式サイトをご確認ください

ヴァイオリン部門優勝 中野 りな
【東京】2023年6月15日(木)
【仙台】2023年6月18日(日)

ピアノ部門優勝 ルウオ・ジャチン
【東京】2023年5月24日(水)
【仙台】2023年5月28日(日)



公式サイトQRコード